

編集後記

本巻には四篇の報告書を収めた。まず丸山氏は新資料にもとずいて、源氏と仏教との関係について園城寺のもつ意義を明らかにされた。源氏研究に貢献するところ極めて大きいと思う。古川氏の「フェノローサと梅若実」も新資料にもとずいて「欧米人の能楽研究」中の所説を増訂された実証性に富む研究である。江口氏の、芥川龍之介とポオとの比較研究はいよいよ佳境に入って、芥川の文学性の一特質が比較文学的に追求されている。古屋野氏の印度における種族社会の社会学的研究は氏の最も得意とされるところであり、学問的意義の高いものである。以上の異色ある研究を学界に送りうることは編集者の喜びである。

昭和三十九年十一月三十日 発行 非売品

編集兼
発行人 木村健次郎

発行所 東京女子大学附属
比較文化研究所
東京都杉並区善福寺二丁目

印刷所 共立印刷株式会社
東京都杉並区和田本町二八